

# 緑川ダム だより

＝緑川ダムに関する情報を発信します。＝

Vol.1



発行 国土交通省 九州地方整備局 緑川ダム管理所  
〒861-4703 熊本県下益城郡美里町畝野3456  
TEL (0964) 48-0216

## ■平成30年の洪水について

平成30年は災害の多い年でした。特に7月に発生した西日本豪雨では梅雨前線によって、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、7月の平年の月合計の降水量の4倍となる大雨を記録し、甚大な被害が発生しました。

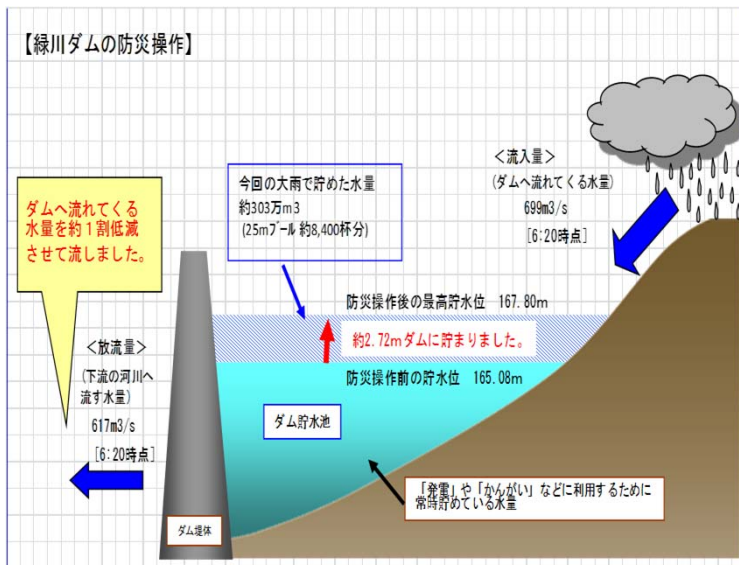
九州においては、甚大な被害は発生しませんでした。全ての国の直轄ダム（9ダム）において洪水調節を実施し、被害をおさえる働きをしました。

緑川ダムにおいては、今年は8回ゲートから放流し、洪水調節は1回（7月7日）実施しました。

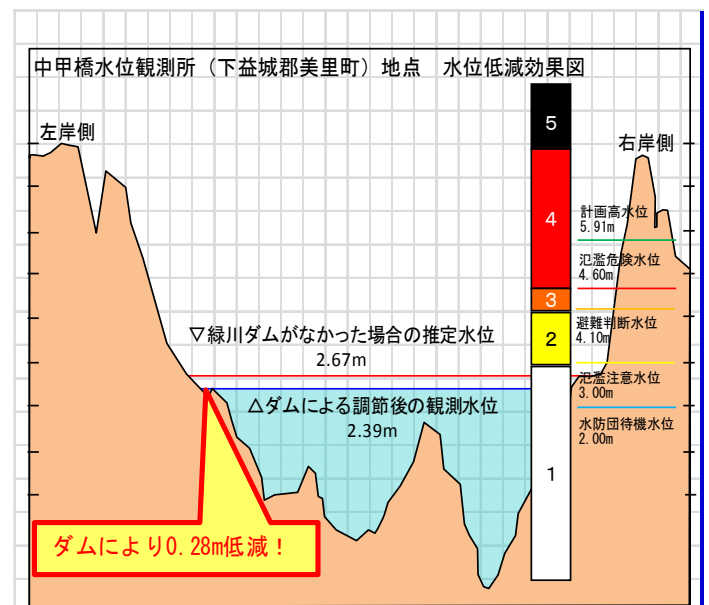
### <7月7日洪水調節について>

7日の早朝からの大雨により、ダム最大流入量が毎秒699トンに達しましたのでそのうち毎秒82トンダムに貯め込み、毎秒617トンダムから下流に放流し、下流の浸水被害軽減に努めました。

ダム操作状況概要図



ダム下流の水位低減効果図



- ・約303万トン（25mプール8,400杯分の水を貯留しました。
- ・水位にすると約2.72m貯留しました。

- ・ダムの貯留により、下流の中甲橋地点で0.28mの水位を低減しました。

## 異常洪水時防災操作とは？

異常な雨の降り方により、計画を上回る大きい水量が貯水池へ流れ込むと、洪水調節を行っているうちに、ダムに貯められる容量が不足してしまう事が考えられます。このような場合には、下流に流す量を徐々に増加させ、貯水池に入ってくる水量と同じ量を下流に流す操作に切り替えます。この操作を異常洪水時防災操作と呼びます。

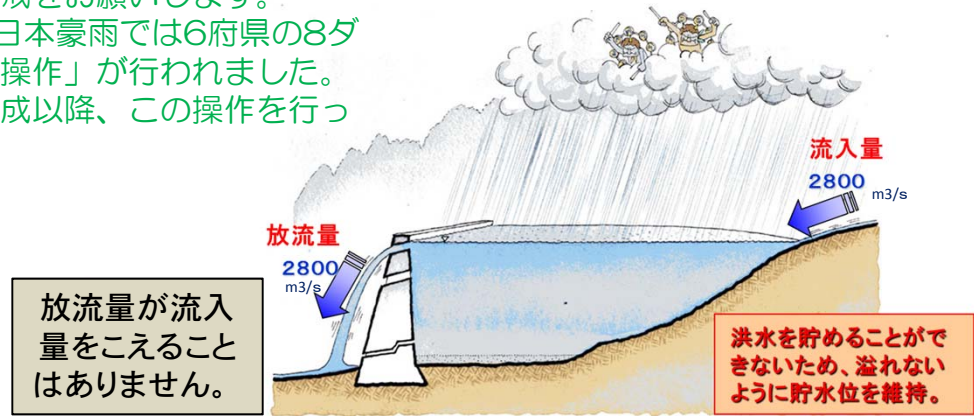
この場合、下流河川の水位が急激に上昇する恐れがありますので、サイレンや防災無線等の情報に注意し厳重な警戒をお願いします。

平成30年7月の西日本豪雨では6府県の8ダムで「異常洪水時防災操作」が行われました。

緑川ダムではダム完成以降、この操作を行った実績はありません。



平成30年7月7日洪水の放流状況



自然河川状態（ダムに入る洪水＝ダムから流す量）でのダムの操作を維持。

## ■ダム（インフラ）見学！

毎年、多くの方々がダム見学に訪れています。

今年11月現在で2100名の方々がダム本体のトンネルやゲートそして資料館を見学されました。



※平日9:00～16:00  
までダム見学できますので、お気軽にお問い合わせ下さい



## ■ダムクリーンアップ！

ダム完成後、47年が経過し、苔や汚れが目立つようになり、多くの方々に気持ちよくダムを見学していただけるようダムクリーンアップを行っています。

レストエリアの四季折々の花々が皆さんをお待ちしています。



くまモンも待っています！

